

議場に乳児 嚴重注意へ 熊本市議会「規則に違反」

2017年11月30日 06時00分



熊本市議の緒方夕佳氏（42）が22日の市議会本会議に生後7カ月の長男を連れて着席し、開会が40分遅れた問題で、市議会議会運営委員会は29日、議長名の文書で緒方氏を嚴重注意することを決めた。

子連れでの入場は傍聴人が議場に入ることを禁じた議会傍聴規則に違反し、議事進行を妨げた責任があると判断した。

緒方氏は取材に「開会が遅れたことは申し訳ない」と陳謝。

「議会棟内の託児所設置など、親子が離れずに仕事を続けられるよう環境整備を求めていく」と述べた。沢田昌作（よしとも）議長は「本人から要望を聞き取った上で、今後の対応を協議したい」としている。

緒方氏は妊娠中の昨年11月から、子連れでの議会出席やベビーシッターの配置などを議会事務局に要望。前向きな回答を得られず、「育児と仕事の両立に苦しむ人たちの声を体現したかった」と説明していた。

■沖縄 議員控室を保育室 豪 議場での授乳もOK 両立環境づくり必要

乳児同伴での議会出席を認めた前例は今のところ国内にはないが、地方議会には議場近くに保育スペースを確保するなど対応に乗り出したケースもある。海外では議場での授乳を認める国もあり、有識者は「子育てを理由に議員活動から排除されない環境づくりが必要」と指摘する。

東京都新宿区議の鈴木ひろみ氏（34）は2014年に初めて産休を取得した際、インターネットなどで「辞めて子育てに専念しろ」などと批判された。

2児を育てる今は、保育園や病児保育を利用したり、親族などに預けたりして両立を図る。ただ、事前の了解なく乳児を同伴した熊本市議の行動については「意見の違う人たちの賛同を求めながら少しずつ要望を実現していくのが政治。手続きを踏むべきだった」との見解だ。

議員の働き掛けを機に対応に動いた地方議会もある。沖縄県北谷（ちやたん）町議会は9月から、議場と同じ階にある畳敷きの議員用控室を保育スペースとして提供。町議の宮里歩氏（38）が第1子を妊娠中に議会事務局に相談し、議会運営委員会と全体協議会での審議を経て決定した。

宮里氏は議会出席の際、町の育児援助制度を利用してベビーシッターを手配。休憩時間に保育スペースにいる子どもの様子を確認したり、授乳したりした。「他の議員の理解と事務局のサポートがあったからスムーズに進んだ」と話す。

一方、オーストラリア政治に詳しい神奈川大の杉田弘也特任教授によると、同国の上院では03年に議場での授乳が認められた。さらに昨年規則が改定され、上下院とも世話が必要な乳児の議場への同席が、議員の性別を問わず可能になった。同国では地方議会の多くも同様の運用をしているという。

日本の対応が遅れている背景を杉田教授は「そもそも女性議員が少なく、問題が表に出ず議論されてこなかった」と分析。オーストラリアでは上院の約4割、下院の3割弱が女性議員といい、「一議会の問題と捉えるのではなく、女性の政治進出を加速させるためにも、国会を含む全国の議会で議論を深めてほしい」と注文した。

上智大の三浦まり教授（政治学）は「子育てや障害など、さまざまな事情を理由に議員が政治参画を妨げられないようにすることが重要で、議場に子を連れて来ることの是非は論点ではない」と指摘する。その上で「子育て中の議員が排除されないためにも、子の預け先を議会として保障することが必要」と提起する。